

日本国憲法改正案、衆院を通過!



紛糾する国会決議。強行採決に手を挙げる議員も。

本日未明、永田町の国会議事堂は、歴史的転換点における激しい政治的攻防の舞台と化した。自由民主党は、新民主党をはじめとする野党の猛烈な抵抗を排し、日本国憲法改正案を衆議院憲法改正特別委員会において単独で強行採決した。これにより、第二次世界大戦後、連合国軍総司令部(GHQ)の占領下で制定されたとされる現行憲法の抜本的見直しに向け、政府・与党が悲願としてきた「自主憲法制定」への道が、ついに拓かれることとなった。この動きは、日本の戦後史に新たな一章を刻むものとして、後世に語り継がれるであろう。

しかし、この強行採決は、国民の間にも深い亀裂を生み出している。国会周辺では、採決の報が伝わるや否や、早朝から詰めかけていた学生、労働組合員、市民団体メンバーら数万人が一斉に激しい抗議活動を開始。「憲法改悪反対!」「平和憲法を守れ!」といった怒号が飛び交い、警備の機動隊との間で大規模な衝突が発生。未曾有の混乱の中、多数の負傷者と逮捕者が報告されており、日本の政治は今、まさに激動の時代を迎えている。

憲法改正案の主な柱は、第一に、現行憲法第九条第二項の「戦力不保持」条項の大幅な見直しである。改正案では、自衛のための「国防軍」の保持が明確に規定され、その任務と権限がより具体的に定められることとなる。政府・自民党は、朝鮮戦争勃発以降の国際情勢の緊迫化と、東西冷戦の激化を背景に、日本の安全保障環境が大きく変化したと主張。自主防衛能力の強化は、独立国家としての責務であり、国際社会における日本の役割を高めるために不可欠であると繰り返し説明してきた。現行憲法下の「自衛隊」は、法的な曖昧さが指摘されており、国際的な協力活動や集団的自衛権の行使においても制約が大きかったが、国防軍の創設により、これらの制約が緩和され

れる見通しだ。第二に、天皇の地位に関する規定の変更である。現行憲法では「国民統合の象徴」と位置づけられている天皇が、改正案では「国家元首」として明記される。ただし、その権能は国事行為に限定され、政治的実権を持たないという条項は維持されており、自民党は「立憲君主制の原則は守られる」としている。しかし、野党や一部の国民からは、戦前の天皇主権国家への回帰を懸念する声も上がっており、議論を呼んでいる。

その他、教育に関する条項では「国家の発展と国民の福祉に寄与する国民の育成」が明記されるなど、より国家の役割を強調する内容が盛り込まれている。今回の強行採決によって、政府・与党は、改正が日本の真の独立と国際社会における地位向上に不可欠であると強調するが、一方で、戦後日本が「平和国家」として歩んできた道のり、そして現行憲法が保障してきた基本的人権と民主主義の原則が揺らぐことへの強い懸念が広がっている。

特に、第九条の改正に対する国民の反発は根強い。原子爆弾の悲劇を経験し、戦争の惨禍を知る多くの国民は、「二度と戦争をしない」という誓いを平和憲法に託してきた。国防軍の創設は、彼らにとって再び日本が戦争に巻き込まれるのではないかという拭い去れない不安を抱かせている。

この歴史的な一日を境に、日本の進む道は大きく転換するであろう。新憲法が、本当に国民の幸福と平和をもたらすのか、それとも新たな混乱と分断を招くのか、今後の国民的議論と社会の動向が、これまで以上に注視されることになる。日本は今、自らの手で未来を切り拓くという重い選択に直面している。

並行
日本
新聞

1960年(昭和35年)

11月19日(土)

発行所

弁天舎



info@parallel-nippon.jp

号外

並行日本新聞・号外は左記サイトでもご覧いただけます。
www.parallel-nippon.jp
8月27日(水)より開催の弁天舎特別企画・シモヒロヤス個展『パラレルニッポン』にて全ての号外新聞を展示予定です。

弁天舎特別企画

HIROYASU SHIMO SOLO EXHIBITION

シモ ヒロヤス個展2025

PARALLEL
NIPPON

2025 8/27 WED. - 9/7 SUN.

OPEN 12:00 - CLOSE 20:00

会場 日仏会館ギャラリー
東京都渋谷区恵比寿3-9-25

パスポートチケット/500yen (未就学児無料)



300を超える作品群＋
新しいタイプの作品が登場!

もはや国宝級!?のお宝「弁天様」、TikTok再生数1000万回超えの「本に挟まる人」、未完成なる完成形書籍「未完文庫」…。弁天舎ブックフェアとして数々の作品展を経て、メディアアーティスト・シモヒロヤスが織り成す美しきフェイクの世界がスケールアップして、東京恵比寿に出現。そこに存在する世界は、未だ「昭和」が続くパラレルニッポン。懐かしくて新しい、どこにもあってどこにもない、まさに人類未体験の日本です。会期中はほぼ毎日、アーティスト自身による講義パフォーマンスも敢行。300点を超える作品の見どころや、激動のパラレルニッポンの有り様を紹介します。歴史を転換した意識研究とは。意識はどこに宿るのか。そもそも意識とは。もちろん「弁天様」もアップデートして降臨。さあ、遊び心を解放して、虚と実を行ったり来たりしながらお楽しみください。

特設サイト/ www.parallel-nippon.jp